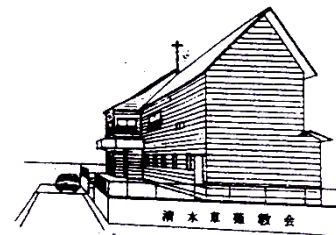


《エステルのかから》エステルのかでは、マタイによる福音書を読み進めています。5:17以降をみましょう。ここで、旧約聖書に記録されている、律法についてその意味を主は語って人々に語られます。4章でみたように、多くの人々が主イエスの弟子となることを目指してやってきました。またイエス様も、諸会堂で教えてまわられました(4:23)。抑圧された人々にとって、律法は決して救いにはつながらないものでした。彼らは聖書を信じていました。しかしそこに記されている律法が、彼らを苦しめたのです。律法の厳しい教えとおこないを、実行できなかつたのです。彼らは、あまりにも社会的な地位が低く、律法順守ができなかつたのです。自分たちの信じている信仰が自分たちを苦しめる結果になってしまっている。悲しいことです。ひょっとしたら今の教会にも、こんなことってないでしょうか。神様のことは信じている。しかし毎日の教会生活に多くの負担を感じてしまう。こんなことがあつたら解決されなければなりません。何か信仰とは関係のない“見栄え”のようなものを大切にしている場合もあるかもしれませんし、他のことが原因になっている場合もあるでしょう。規則や、クリスチャンにふさわしい行いをしなくては、とおもって悲しく思っている時もあるかもしれません。山上の説教でイエス様は、“そうではない”と語られます。“天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたれることはなく、全うされるのである(18節)”と説教してくださっています。以下この章を通して、律法の意味を語られます。“余裕のある人たちができる、他から見て、判断できる行ないに止めておくことが、律法順守を不幸の原因にするのだ”と主は仰っているようです。姦淫するなど書いてありますがどんな意味でしょうか(27節)と主は人々に聞かれます。人々の内多くは、姦淫の行ないを行わないこと、と思つたでしょう。しかし、モーゼに立ち返つて思い出さない、とイエス様は説明をしてくださいます。見つからなければ良いとでも言うのですか。神が人々に願われ、誠められたこと、民全体が正しくあるための律法は、姦淫を人々の心の中にまで(徹底して)問題におられるのではないのですか、か、語られるのです。“殺すな”と旧約聖書にあるのもおなじ意味ですと、イエス様は語られます(21節)。刃物や武器を手にして殺すことを指しているのではないですよ、と言われるのです。憎しみという“殺人”が、どんなに今の信仰者の群れをも、貧しくすることが、あるでしょうか。

週報

2008年 2月 24日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステルのか	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸